

## 保険詐欺 case#2

東京、ニューヨーク、ロサンゼルスでの  
経験した出来事を赤裸々に語る新連載！  
私立探偵ケンジの実話体験「調査日誌」

我々私立探偵は保険会社からの依頼で保険詐欺 (Insurance Fraud) の調査を請け負うことがある。例えば自動車事故の被害者になり、出勤出来ない程のケガをしたとしよう。当然、保険会社からは休業中の保険金が支払われることになるが、実際には仕事に支障をきたすようなケガではなく、“働かないで生活費がもらえるなら”と症状を大げさに訴えたり、完治しているのに意図的に通院を繰り返す者も少なくない。こういった詐欺行為を裏付ける最も有効な証拠は彼らの日常生活を撮影することであり、尾行・張り込みの専門家である我々に調査依頼が来るのである。



同じ尾行・張り込みでも浮気調査と保険詐欺調査では我々のモチベーションもおのずと違って来る。また、詐欺調査では大義名分が立つために警察官も協力的だ。張り込み中に通報されてしまっても、ライセンスを見せて保険詐欺調査を行っていることを告げればさりげなく取り計らってくれることが多い。

### 張り込み

私がニューヨークで扱った保険詐欺調査の一つをご紹介します。Subject (対象者) は40代前半の白人男性。駐車場を歩行中に車両と接触し、背中中に激しい痛みを感じるようになったとのこと。深夜のオフィス清掃を仕事としていた彼は重い清掃器具を持ち運ぶことが出来なかっただけでなく、簡単な清掃作業も出来なくなり、休職せざるを得なくなったと主張。

保険金を貰いながら通院生活を3年間続けているとのことであった。我々の仕事は事実を報告することである。対象者に対する個人的感情は一切無い。結果がシロであろうとクワであろうと真実の一つである。それを調べて報告するのが仕事である。私とパートナーのLは早朝5時にクイーンズの低層住宅街へ向かった。対象者のアパート前で張り込みを開始する。

運転免許証の写真だけをもとにアパートから出てくる大勢の人達から対象者を識別しなければならぬが、アメリカの運転免許には身体的特徴が記載されているので日本のよりは役に立つ。午後3時まで張り込みを続けたがそれらしい人物は確認されなかった。

### 対象者を発見、しかし・・・

パートナーのLはこういった尾行・張り込みばかりを専門に行う私立探偵。とにかく事務所で机に向かってるのが大嫌いな彼はパソコンも使えず、たまに見るキーボードを叩く姿はバザマそのものである。しかしながら一旦現場に出るとまさに水を得た魚だ。ストリートの流儀を良く心得ている彼は道端にたむろしている連中に溶け込み、彼らから重要な情報を巧みに引き出す技術はまさに神業である。午後4時30分、対象者らしき人物がやっとアパートから出てきた。少し遠くに駐車してあった車に乗り込み、大通りへ向かう。事前に調査しておいた対象者所有の車とナンバーが同じであり、対象者に間違いない。早速尾行を開始する。順調に尾行を続けていた我々だったが、交差点で黄信号を強引に渡り切った対象者を見失ってしまった。車両尾行の難しさはここにある。発覚を避けるためには最低1台は車をはさんで尾行しなければならないが、それでは今回のように黄信号をぎりぎり振り切られたときに対応出来ない。



信号近くでは真後ろに付け、それ以外では他車をはさんで尾行するのが理想であるが、現実はその上手い出来ないものである。対象者を見失った際の我々の鉄則は“起点に戻れ”。不思議なもので見失った対象者は見失った地点に戻ってくる。今回もその交差点で待っていると対象者の車両が我々の横を通り過ぎ、再び尾行を続けることが出来た。

### 意外な姿

この頃にはラッシュアワーになったため、やむを得ず対象車両の直後を追尾する。しかしながら我々も服を変えたり帽子を被ったり脱いだりして少しでも対象者と同じ印象を与えないように心がける。対象者はマンハッタンに入り国連本部近くで車を駐車。仲間と思われる大勢の人達と打ち合わせを始めた。そしてトランクから幾つもの木製プラカードを取り出し、それを肩に担いで国連本部へ向かって歩きだした。ご記憶だろうか。彼は背中に“重い障害”があり、簡単な清掃作業にすら支障をきたす程のケガ人のはず。それが重いプラカードを担いで端爽と歩いている。詐欺を裏付ける決定的瞬間だ。



しかもご丁寧に仲間のプラカードまで気を利かせて運んでみせるサービスぶりであり、もちろん、我々はその姿をビデオに収める。彼らは環境問題のデモグループで国連前でデモ活動を行うために集まっていたのだ。威勢良く声を張り上げてプラカードを上下させる自分の姿を保険会社に雇われた探偵が撮影しているなどは対象者は夢にも考えていなかっただろう。

他にも腰をケガして失業しているはずの対象者がバーテンダーとして勤務しており、重いビールケースをせっせと運んでいたケースがあった。足に大きなケガをして仕事をしていないはずの対象者が“自分は腕の良いカメラマンだからいつも連絡してくれ”と言って名刺を手渡したケースもある。保険詐欺のしわ寄せは正当に保険金を払っている人達への掛け金値上げという形で跳ね返ってくる。

保険詐欺は決して被害者の存在しない犯罪ではない。今回の対象者がその後どうなったかは分からない。しかし保険会社を騙し続けていたことを後悔していることは間違いないだろう。

### 保険詐欺についての豆知識

- 1.) Coalition Against Insurance Fraudによると、アメリカでの保険詐欺による被害総額は80億円にもなるという。
- 2.) アメリカにいる10人に1人が、もし見つからないと分かっていたなら、保険詐欺をすると考えている。
- 3.) アメリカにいる10人に3人が、もし知り合いが保険詐欺をしていたとしても報告しないと答えている。
- 4.) 3人に1人が、例えば医者が働いても良いという許可を出したとしても、痛みがあれば保険を受けつけても良いと答えている。

www.insurancefraud.orgより。このウェブサイトは、アメリカの保険詐欺事件や対策法、もしくは詐欺にあった場合の対処の仕方などが載っています。興味のある人はどうぞ。

### 【プロフィール】

ケンジ yamaken@agnusa.net  
神奈川県出身。ニューヘイブン大学、大学院上級捜査コース修了。日本の危機管理会社で探偵・ボディガード業務に従事した後、本場の技術を学ぶために渡米。ニューヨークの探偵社にて経験を積む。その後カリフォルニアに移り、私立探偵ライセンス取得。  
現在はL.Aを拠点に調査業を展開中。